

2007 年度

活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

2007年度 日本カトリック信徒宣教者会 活動報告

1. 概要

昨年度設立 25 周年の節目を迎え、新しい四半世紀の歩みを始めた今年度は、6 年ぶりに派遣者全員が一堂に集まる「レイミッシヨナリー会議」を開催した。カンボジア、タイ、東ティモールから 7 名の信徒宣教者、日本から事務局、運営委員、指導司祭の参加を得て開催。それぞれの活動や体験を分かちあうとともに、「今、わたしは何に呼ばれているか」、「今、JLMM は何に呼ばれているか」を黙想し、分かち合うことが出来た。

昨年度派遣希望者の応募が例年に比し少なかったことなどから、今年度の研修を見送り、国内基盤の強化を行った。毎年行う「カンボジア・スタディーツアー」参加者が通算 100 名を越えたことから、スタディーツアー参加者を中心とした「CAMBODIA DAY」を開催。一時帰国中の杉村太郎、高橋真也の報告に合わせ、参加者による分かち合いを行い、カンボジアに思いをはせる一日となった。また、9 月にはカンボジア派遣・浅野美幸の一時帰国に合わせ、活動報告会を行うとともに、「派遣候補者募集説明会」を実施した。

2008 年 1 月には、名古屋を中心に活動されているサクソフォン奏者 2 名の協力を得て、カトリック目黒教会（東京教区）とカトリック由比ガ浜教会（横浜教区）において、～カンボジア・コンポンプルアン水上村活動支援のための～サクソで奏でる教会音楽の調べと題しチャリティーコンサートを行った。

カンボジアでは、ステンミエンチャイ地区に小さい子どもを対象とした子どもの家「プテア・コマ・トーイトーイ」を開設。また、ゴミ集積場閉鎖に向け、付近住民とともに協同組合を結成、「フェリシモ地球村の基金」の支援を得て、屋台貸し出しプロジェクトを始動した。

コンポンプルアン水上村では、「今井記念基金」「日本カトリック海外宣教者を支援する会」などから支援を受け、地域の人々に安全な水を供給できるよう、「水浄化プロジェクト」を始動した。

タイでは、現地教区の社会活動センターが行うラフ・デスクでの活動に参加し、山岳民族ラフ族の生活支援や子どもたちの教育支援を行った。また、活動の傍ら英語教師、日本語教師としてタイ人との関わりを持った。

年末年始には 2 名の参加を得てスタディーツアーを実施した。

東ティモールでは首都ディリにおいて大統領暗殺未遂事件などが起き、情勢不安な状態が続いたが、東部ラウテン県においては比較的安定し、活動することが出来た。第 7 ブロックにおけるコミュニティーヘルスワーカーの養成に向けて着手した。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2008 年 3 月 31 日現在の派遣国と派遣者

カンボジア... 4 名、タイ... 1 名、東ティモール... 1 名

計 3ヶ国 6名

2008 年 3 月 31 日現在の会員数 2,856 (個人・団体)

内訳

個人... 1,392、教会... 327、修道会... 808、学校... 187、その他... 142

2. 各国活動

(1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教師の派遣が開始された。バタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援。スヴァイリエン省にて試験農場、コンポンスプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバタンバン知牧区内プルサート省コンポルアンの水上村における住民との関わりを開始している。

また、2007年6月より、シェムリアップ省クナ・トゥマイにおいてカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

2002年度より浅野美幸（横浜教区）、2004年度より杉村太郎（大阪教区）、2005年度より高橋真也（新潟教区）、2006年度より重富浩子（大阪教区）を派遣した。

重富は2007年6月に6ヶ月の語学研修を終了、シェムリアップ省にあるクナ・トゥマイ・センターで活動を開始した。また、プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野と杉村が担当し、トンレサップ湖上の村コンポルアンの活動を高橋が担当した。

I ステンミエンチャイ地区ごみ捨て場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区ごみ集積場に隣接しているルッセイ村にて、主にごみ集積所内での有価物収入を主収入源として暮らしている家族 115 世帯を対象として活動した。

ステンミエンチャイ地区ごみ集積場では、1965年からプノンペン市内のごみが分別されることなく捨てられている。それらのごみの中からリサイクルが可能な有価物を集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。彼らの中には学校に行かずに働いている子ども、学校に行きながら働いている子どもがいる。十分な医療、教育を受けるのが困難な地域であり周辺住民の住居や生活環境が不衛生であることから、この地域では多くの NGO が活動を展開している。

2. 活動概要

1998年1月からカリタス・カンボジアとの協働で活動を開始。2002年12月カリタス・カンボジア撤退後 JLMM カンボジアが継続して活動を実施。

2003年にプテア・コマ（子どもの家）活動（プテア・コマ I）、2004年プテア・コマ II を開始。2005年2月より発達年齢に分けて週4日「大きな子どもの家」「小さな子どもの家」を開始。住民の希望により2005年10月から週5日の活動とした。

2007年9月より幼稚園部を開始。貧困や家庭の事情で小学校に入学出来ない子ども、小学校を退学、落第、そして授業についていけなくなった児童が多い地域で、基礎的社会能力や知的能力を

学び取れる経験の場として活動を実施展開。衛生環境が劣悪であり、清潔を保つことが困難な上に十分な医療を受けられないケースがあるため、それらを鑑みプテア・コマ活動と合わせて周辺住民を対象とした衛生教育活動も実施。カンボジア人スタッフ1名の他に子どもの家の先生2名、ヘルパー3名を雇用し活動を実施。

ドイツ「Die Sternsinger」から支援を受け実施した。

1) プテア・コマ (子どもの家)

「小さな子どもの家」の老朽化が進み、子どもの人数に見合った広さを確保できなくなったため、新たな土地を用意し「小さな子どもの家」を新設。老朽化が進んだ「小さな子どもの家」を修理し「小さな子どもの家」に参加していた低年齢の子どもたちを集めた「小さな小さな子どもの家」を9月より開始。15人程度の乳幼児が参加。クメール語や数字の勉強は一切行わず自由遊びを中心としたクラスとした。「小さな小さな子どもの家」の開始により「大きな子どもの家」「小さな子どもの家」「小さな小さな子どもの家」の3クラスとなった。

a) プテア・コマ トム (大きな子どもの家)

対象年齢：クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童。

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|-------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 9:00 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | クメール 文字 |
| 9:15 | 道德のお話 | お話 | 衛生のお話 | お話 | |
| 9:20 | クメール語 | クメール文字 | クメール文字 | クメール文字 | |
| 10:00 | 数字 | 図工 | ゲーム/音楽 | お絵かき | |
| 10:30 | 塗り絵 | 自由遊び | 塗り絵 | 自由遊び | 数字 |
| 10:50 | 絵本 | 絵本 | 絵本 | 絵本 | |
| 11:00 | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム |

b) プテア・コマ トイ (小さな子どもの家)

対象年齢：クメール語子音の読み書きが出来ない児童。

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|-------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 9:00 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 | 歌 |
| 9:15 | お話 | 道德のお話 | お話 | 衛生のお話 | クメール 文字 |
| 9:20 | クメール文字 | クメール文字 | クメール文字 | クメール文字 | |
| 10:00 | 図工 | 数字 | お絵かき | ゲーム/音楽 | |
| 10:30 | 自由遊び | 塗り絵 | 自由遊び | 塗り絵 | 数字 |
| 10:50 | 絵本 | 絵本 | 絵本 | 絵本 | |
| 11:00 | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム | 豆乳プログラム |

c) プテア・コマ トイトイ (小さな小さな子どもの家)

対象年齢：就学年齢前の乳幼児 (2歳～5歳)

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 9:00 | 歌 お話 自由遊び | 歌 お話 自由遊び | 歌 お話 自由遊び | 歌 お話 自由遊び | 歌 お話 自由遊び |
| 9:30 | 鉛筆を使う練習 | 鉛筆を使う練習 | 鉛筆を使う練習 | 鉛筆を使う練習 | 鉛筆を使う練習 |
| 10:00 | 設定保育*/ 自由遊び | 設定保育/ 自由遊び | 設定保育/ 自由遊び | 設定保育/ 自由遊び | 設定保育/ 自由遊び |
| 11:00 | 絵本読み聞かせ 豆乳プログラム | 絵本読み聞かせ 豆乳プログラム | 絵本読み聞かせ 豆乳プログラム | 絵本読み聞かせ 豆乳プログラム | 絵本読み聞かせ 豆乳プログラム |

* 図工やお絵描き、塗り絵やゲーム、パズルなど

2) 豆乳プログラム

栄養価の高い食品を継続して摂取するのが困難な地域にあり、子どもたちは実年齢より幼く見える。健康を持続するためにも栄養のある食品を摂取することは重要であるためプテア・コマにおいて一日の終わりに子ども一人ひとりにコップ一杯分の豆乳を提供。また幼すぎてプテア・コマに来ていない乳幼児で希望する家庭には豆乳を安く販売。病気で十分な栄養を摂取出来ない村人には豆乳ペットボトル1本を提供している。

3) プライマリ・ヘルスケア・サービス・家庭訪問

ゴミ集積場内は分別されることなく捨てられるゴミにはビンのかけらが散乱し、その中で働く彼らは切り傷、皮膚疾患が絶えない。村内においても道端や家の周囲にゴミが散乱している。また、乾季になるとゴミが燃やされる煙が村にも流れ込み、頭痛や呼吸器関係の病気を引き起こす原因となっている。

家には十分な医薬品が無いため、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと指導を行なう。プテア・コマに来る子どもたちへ傷の手当てを行い、村内を巡回し村人の傷の手当てを行う。

その他、風邪の予防法のアドバイス、病院紹介、病院までの交通費の援助、また問題を抱える家族には緊急援助を行った。

Case1.HIV/AIDS 患者

プテア・コマの近くに住んでいた貧困家庭において HIV/AIDS を発症した母親(33)に対して病院への交通費、検査費用、食費などを支援。メリノール修道会へ協力を求め HIV/AIDS に対処する支援を依頼した。物価高騰が著しいカンボジアでは地価の高騰も目立つ。ステンミエンチャイにおいても例外ではなく土地を売却する地主がいる。HIV/AIDS の貧困家庭も地主の土地売却により家を失ってしまう。これを受け JLMM では新たに土地を用意し「JLMM 名義の家」を建てた。現在、この家に HIV/AIDS を患う貧困家庭の家族が住んでいる。今後、彼らが退去した後も JLMM が貧困家庭に家を貸す形で継続していく予定。

Case2.皮膚疾患

両足裏皮膚疾患により歩行困難な少女(6)に対して皮膚科病院通院の集中支援を行う。継続した通院が必要であったために病院への交通費、薬代を支援。

4) 石鹼キャンペーン

劣悪な環境状態のゴミ集積場に通い生活を支えている人たちは、生活・衛生環境不良のため皮膚疾患が多く見られる。貧困家庭に月2回、石鹼を低価格で販売、虱対策の石鹼、皮膚疾患対策の石鹼、蚊除け石鹼、洗濯用洗剤の販売もあわせて行う。

5) 移動図書館プログラム

カンボジアで活動する日本のNGO『SVA(社)シャンティ国際ボランティア会』の行う「スラム教育文化支援事業 移動図書館活動」をプテア・コマで実施。12月にSVA移動図書館事業担当者として下見面談。2008年1月より毎月一回のペースで開始。

6) 屋台プロジェクト

ゴミ集積場が2009年に閉鎖されるにあたり、現在ゴミ集積場で生計を立てている住民たちが、ゴミ集積場閉鎖後も自立した生計を立ていけるように、そして子どもたちが引き続き小学校へ通学できるように、仕事を提供し生活の安定を図っていくことを目的とし、屋台貸し出しプロジェクトを「フェリシモ地球村の基金」からの支援を受け実施した。

9月にカンボジア式のオープニングセレモニーを開催。僧侶、カトリック神父、村長、警察、スポンサーグループ、近隣NGO関係者が参加。

『Phcuap Kdei Sankhum』「希望をつなぐ」という意味の協同組合ロゴマーク入りの屋台、ユニフォームを着用し、9名の販売員が屋台での「ロッチェ」というクレープ菓子の出店販売を開始した。

7) その他

- a) プテア・コマにおいてクメール正月のお祝いを行う。(4/10)
- b) カリタス・カンボジアの職業訓練校で美容技術を学んでいる学生たちをプテア・コマに招き、無料体験美容院を開く。(5月)
- c) 小さな子どもの家建設(4/27開始、6/15落成式)
- d) 「小さな小さな子どもの家」プログラム開始(9/3)
- e) プテア・コマにおいてプチュム・バン(カンボジアのお盆)のお祝いを行う。(10/5)
- f) シスター東盛(ショファイユの幼きイエズス修道会)指導による幼稚園の先生のための研修会に参加。(11/1~3 プサートーチ教会)
- g) オリビエ神父(パリ外国宣教会)が運営する学生寮の男子大学生たちがプテア・コマにおいてボランティアでクリスマス会を開催。(12/15)
- h) 「菊名教会基金」の運用と決算報告。
- i) ドイツ「Die Sternsinger」助成金の子どもにおける運用と決算報告。
- j) 「フェリシモ地球村の基金」の屋台事業における運用と決算報告。
- k) カンボジア開発評議会に提出する書類作成。

l)外務省、教育省への月間活動報告、決算報告。

m)「日本外語専門学校チャリティーコンサート」収益金の運用と決算報告。7月をもって収益金による運営を終了。

n)カトリック NGO 会議、信徒宣教者の会合に参加。

o)人事

退職：5月10日 プロジェクトアシスタント ステンミエンチャイ担当 Chhy Sothy

採用：6月5日 プロジェクトアシスタント ステンミエンチャイ担当 Keo Vannary

9月1日 小さな小さな子どもの家 ヘルパー Kong Hean

II プルサート州水上村コンポルアン 生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート省水上村コンポルアン

水上村コンポルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では1,600世帯以上の人々が船の上で生活しており、約70%がベトナム人、その他はクメール人とチャム族の人々である。人口は全体で6,000人を超える。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。水上村には電気、ガス、水道はなく、人々は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はクメール語（カンボジア語）が話せない、また国籍を持たないために公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。そのため医療機関へかかることができず、病気を悪化させそのまま死に至るケースも多い。子どもの場合、言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題がある。

2001年から JLMM カンボジアと現地教会、住民の協力のもと、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2006年6月より高橋がプロジェクトアシスタント1名と共に活動している。

2. 活動概要

1) 保健衛生プログラム

①水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続している。水浴びプログラムに通う子どもたちの、湿疹や虱などの症状は、昨年より少なくなっている。また、JLMM カンボジアで準備している湿疹用石鹸、虱用石鹸を自ら買い求め日常的に使用するようになった。参加者は季節によって異なるが、平均して30人程度。住民や母親、若者の参加・協力もあり村人の健康や衛生に対する意識が徐々に向上している。

②病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、軽症のケースに対しての栄養や処置に関する指導、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと共に協力している。病院に搬送

した病人は、癌、HIV、腸チフス、首の腫瘍、足の麻痺、糖尿病、胃炎、肝炎、肝硬変、結核、心臓病、膀胱炎、精神病、目や耳、鼻の病気、指の切断、湖へ落水など様々であった。病人支援数 28 名、41 件。

支援内容は受診に伴う薬代、食費、諸経費の支援、緊急食糧援助、病院への同行や手続き、お見舞いの訪問、相談活動などである。

③ホームケア・プログラム

病人の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行っている。

2) 母子保健に関する活動

2007 年度は訪問活動を行った。産後の母親と乳児を訪問し、相談・指導活動を中心とした。粉ミルク支援は原則として行わず、母乳不足の場合は母親への栄養指導と食費援助を行った。

3) 識字教育プログラム

2008 年 4 月現在、カンボジア人の先生 2 人、ベトナム人の先生 1 人の計 3 人が授業を行っている。授業は午前 2 クラス、午後 2 クラスの計 4 クラス。通っている生徒数は 1 年間の平均で 60 人程度である。

新しいカンボジア人の先生が 2 名加わったことによって、授業の内容を充実させることが出来た。毎日午前の授業後に先生とスタッフを含めたミーティングを行い、カリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。また、幼稚園向けの研修会などにも先生が積極的に参加した。具体的な支援内容は教材の支援や先生の研修費の支援。

2005 年度から「日本カトリック海外宣教者を支援する会」(東京都港区)の援助による通学船で、公立小学校への子どもの送り迎えを始め、大きな成果を挙げている。2007 年 10 月の新学期に 19 名の生徒を識字教室から公立小学校へ送り出したが、現在も大多数の生徒は継続して通っている。保護者と子どもを交えた、通学船使用についての説明などを含めたミーティングも年に 4 回行っており、また生徒に何か問題がある際には、家庭訪問や公立小学校訪問を行っている。

また、2007 年 3 月より、識字教室に通ってくる生徒の送り迎えを始めたが、この通学船も成果を挙げており、識字教室に通う子どもも、継続して学ぶようになった。

今年は年中行事(クリスマス会、卒業式等)を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。

4) 家庭訪問調査

2007 年 4 月より、新しく始まる浄水プロジェクトの調査を含め、住民の生活調査を行った。現在までで約 40 名のデータを集めている。

5) 栄養改善プログラム

2005 年 2 月より始まった栄養改善プログラムを現在も継続して行っている。栄養価の高い食事を提供し、合わせて栄養指導を行っている。子どもには豆乳を、病人、授乳期の母親、老人に対してはボボー(野菜入りおかゆ)の配給を行った。栄養プログラムは定着し、子どもたちは野菜の名前を覚えたり、大人たちにとってはプログラムの時に集まることで交流の場になったりと、様々な良

い影響が現れていた。水浴びプログラムと共に週に1度行っている。

6) 青年活動

2005年度より開始したクレジット・プログラムであるが、返済率が悪いために、新しい貸付は終了した。また、青年グループと呼べるものは今現在なく、イベント時(2007年7月9日～13日バタンバン教区青年ミーティング及び2007年8月21～23日カンボジア全教区青年ミーティングにそれぞれ2名参加)に集まるだけに留まっている。

7) 奨学金

2007年度は2名の学生に対し奨学金を支給。1名はコンポルアン教会識字教室で勉強するために遠方からきた子どもへの生活費のための奨学金。1名はバタンバンで縫製を学ぶコンポルアンの青年の生活費・教材費のための奨学金。

2007年10月からは、奨学金を里親制度に切り替え、この2名の奨学生を里子として、個人が支援する形式に切り替えた。

8) 公立小学校支援

2006年度、公立小学校の補修費として、総額で1,000ドル相当の竹(水上学校に浮力を出すためのもの)の資材の支援を行ったが、今年度の支援は見送った。だが、定期的に小学校を訪問し、校長先生をはじめとする先生たちとの連絡をとっている。

9) 浄水プロジェクト

2007年4月より、「今井記念海外協力基金」や「日本カトリック海外宣教者を支援する会」の助成金などによって、浄水プロジェクトを立ち上げることが出来た。これは、湖の水を浄化し、きれいな水を確保するのが難しい水上村の住民(特に乳幼児や病人を抱える家庭や、貧困家庭)に対して、安価での浄水の提供を行うプロジェクトである。

土台となる船を水上村教会から支援して頂き、その上に浄水装置を設置するための木の枠組みを組み立てた後、浄水装置を購入、設置。浄水した水の検査などを行った。それと並行して住民の水に関する意識や家族の実態調査を行い、浄水に関する審議をおこなう住民グループを立ち上げた(5名のメンバー)。グループメンバーがそれぞれに浄水を提供したい家族を選び、2007年9月に25家族に向けた浄水の販売を開始した。2008年2月からは、さらに提供する家族を25家族増やし、現在は50家族が浄水を購入している。1ヶ月で、一家族が平均して120Lの水を購入した。

10) その他

- a) Sr.東盛の幼児教育研修会(①)及びドイツ人教師によるモンテッソーリ幼児教育研修会(②③)に参加(①6/1-2 出席者:ラー ②10/15-19 高橋、ラー ③3/2-12 高橋、ラー)
- b) バタンバン教区青年ミーティングに参加(7/9-13 高橋、ラー)
- c) カンボジア全教区青年ミーティングに参加(8/21-23 高橋)
- d) バタンバン教区パストラルミーティングに参加、活動プレゼン(10/16-18 高橋、ラー)
- e) バタンバン教区社会福祉活動部及びカリタス・カンボジアの合同ミーティングに参加(1/10 ラー)

- f) 「聖母の騎士」原稿依頼執筆。
- g) コンポルアン担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング。
- h) コンポルアン教会典礼の準備、協力。
- i) 教育省、警察などをはじめとする地域機関への訪問。
- j) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携。
- k) シンガポール医学生による医療ミッションへの協力。(12/17-18)
- l) 「日本カトリック海外宣教者を支援する会」への助成金申請。(11月)
- m) 「カンボジア福祉基金藤沢」の運用。
- n) 「今井記念海外協力基金」への中間事業・会計報告。(2月)
- o) 各教会・個人へ向けた活動資金協力申請(11月)及び毎月の活動・会計報告。
- p) 人事
 - 採用: 識字教室先生 Thida (2007年4月～)
 - 浄水装置管理士 Thu (2007年8月～)
 - 通学船運転手 Tha (2007年9月～)
 - 識字教室先生 Roat (2007年10月～)
 - 通学船運転手 Gam (2007年10月～)
 - 識字教室先生 Thida (2008年2月～)
 - 退職: 識字教室先生 Thida (2007年9月)
 - 通学船運転手 Nyack (2007年9月)
 - 通学船運転手 Tha (2007年10月)
- q) 自宅において近隣住民を対象とした日本語教室開始。(4月～)

III シェムリアップ教会支援

1. 対象地域と地域概要

シェムリアップ省クナ・トゥマイ村

クナ・トゥマイ村は、ポルポト時代にタイの難民キャンプに避難していた人が戻ってきて作り上げた村と言われている。村には約140世帯、600人以上の人が住んでいる。

とても貧富の差が激しく、高価な自転車に乗って学校に通っている子どももいれば、学校に通えない子どももいる。また村内では賭博が公然と行われており、賭博のために家庭崩壊している家族も少なくない。

シェムリアップ教会が2002年に子どものためのセンターを村内に作ったが、センターの指導者は教育の資格を持たないため、指導者への指導と直接子どもへの指導を要請され、2007年6月より活動が始まる。

2. 活動概要

1) クナ・トゥマイ・センター

① 子どもセンター

センターの目的は、子どもに楽しい時間を提供すること。毎週月曜日から木曜日、午前7時半から9時まで子どもを集めて衛生指導、クメール文字の学習、体育遊び、ゲームなどを行っていたが、参加する子どもの数が減少傾向にあったため、内容を大きく見直し、コーナ

一遊びの形態をとるようにした。センターにやって来た子どもが好きな教材を自分で選び、好きなだけやりたいことをするという形をとるようにした。このため子どもの数は増加傾向に転換し、子どもも定着するようになったので、午後2時半からもコーナー遊びを始めるようにした。

**コーナー遊びの内容：ブロック、積み木、パズル、クメール文字カルタ、ままごと、塗り絵、
絵画制作**

殆どの子どもは色塗りが好きで、来ている間、ずっと色塗りをしている子どもも珍しくない。そこで色塗りした作品を預かり、数ヶ月に一度作品をまとめて一人一人に返すことにした。週に一度ははさみやのりを使い製作活動も始めた。子ども達が作った製作物をセンターに飾り、そうすることで、子ども達もとても喜んでいる。

週に4日間、一日2時間という短い時間だが、家の手伝いをしなければならない子どもにとって、センターでの時間は自分の時間を楽しめる貴重なものとなっている。

②おかげプログラム

毎週日曜日2時から子ども達をセンターに集め、宗教の話や色塗り、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかげを提供した。子ども達は100人ほど集まり、おかげ作りは地元の中高生やシェムリアップ教会の中高生が作り、センターは青少年育成にも役立っている。

③その他

- a) 毎土曜日シェムリアップ教会の掃除・カテキズムに参加
- b) 毎日曜日ミサ後教会学校の手伝い

IV その他、事務活動

1) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学の受け入れ

次の日程で JLMM 関連カンボジア・スタディーツアーを受け入れた。

| | |
|----------------|-------------------------------------|
| 2007年7月17日～23日 | ニコラバレグループ |
| 7月24日～8月15日 | ニコラバレグループ 体験ボランティア |
| 9月4日～10日 | 日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース |
| 9月26日～29日 | 虹の会 (JLMM・OBOG 夫妻運営のグループ) |
| 12月26日～1月3日 | カトリック菊名教会青年 |
| 2008年2月12日～21日 | 専修大学 SIA サークル |
| 3月12日～18日 | 上智大学サッカー部 |
| 3月25日～30日 | 中学生・高校生のための海外研修 (近畿日本ツーリスト横浜教育旅行支店) |

ステンミエンチャイでは上記以外に 38 組のべ 200 人のボランティア・見学・取材を受け入れた。
コンポンルアンでは上記以外に 21 名の訪問・宿泊を受け入れた。

3) 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」と活動や事務的内容等のミーティングを開催。ビザ申請支援等を行う。

4)ラチャナ・ハンデイクラフト・バタンバンの支援

ラチャナ・ハンデイクラフトの商品を JLMM オフィスにて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業。

5)JLMM ツアー・体験ボランティアの受け入れ

ニコラバレのシスターと先生たちの体験ボランティアをステンミエンチャイとコンポンルアンで2週間受け入れる。

6)東京事務局との連絡調整・連携

4月23日～4月26日 プノンペンにおいて JLMM カンボジアのビジョンを確認

6月31日～7月6日 プノンペンにおいて屋台プロジェクトの協力

7)黙想会・祈りの集い

- ・ 5月11日～15日、コンポンソムにて Sr. 東盛指導による黙想会。
- ・ 月に一度、プノンペン事務所にて祈りの集い及び活動報告を行った。

8)一時帰国

高橋真也 6月1日～27日、12月6日～13日

杉村太郎 6月20日～7月20日

浅野美幸 9月19日～10月17日

6月23日 JLMM イベント CAMBODIA DAY に杉村・高橋が参加

7月3日 カトリック新聞の取材を受ける 杉村

9)一時帰国報告会

高橋真也

6月9～10日 新潟教区カトリック新潟教会

6月12日 新潟教区司祭の集い（胎内）

6月15日 聖ウルスラ学院英智高等学校

6月17日 新潟教区カトリック米沢教会

6月23日 CAMBODIA DAY（六本木フランシスカン・チャペルセンター）

6月24日 横浜教区カトリック藤沢教会

杉村太郎

6月23日 CAMBODIA DAY（六本木フランシスカン・チャペルセンター）

7月1日 大阪ふれあい NET（東大阪）

7月8日 大阪教区カトリック吹田教会

浅野美幸

- 9月23日 横浜教区カトリック新子安教会
- 9月29日 フランシスコ会聖ヨゼフ修道院
- 10月7日 新潟教区カトリック高田教会
- 10月8日 新潟教区長岡地区婦人の集い
- 10月14日 横浜教区カトリック山手教会

10) その他

- ・ JLMM 第2回レイミッションナリー会議 in パタヤ参加 (11月5～8日)
- ・ 関係各位へのクリスマスカード送付

(2) タイ

タイへの派遣は、2000年に一年間のインターンとして、本橋奈々子（東京教区）をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれの DISAC（ダイサク： Diocesan Social Action Center: 教区社会活動センター）に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を 2004年にチェンマイ教区 DISAC へ派遣。DISAC と協働し、少数民族支援（主にカレン族）のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行い、2006年に任期を終了。

2005年2月17日、日笠山万希子（2004年度・福岡教区）を同 DISAC に派遣。2005年7月までの語学研修期間を経て、少数民族のラフ族の教育支援を行う傍ら、ウボンラット学校において英語教師として活動した。

2007年3月20日より松本和歌子（2006年度・福岡教区）を新たに派遣。日笠山とともにラフ族の子どもたちの教育支援活動などを行った。また、サンカムペン公立高校において日本語教師としてタイ人高校生との関わりを持った。

日笠山万希子は、2008年3月16日任期終了、4月20日に帰国した。

I ラフ族村での活動

1. 対象地域と地域概要

チェンマイ教区 DISAC の歴史は、宣教者たちが少数民族対象の活動を始めた 1931年にまで遡るが、正式に設置されたのは 1975年で、人的開発のための社会活動を目的としている。CCTD（タイカトリック開発協議会）に属する一組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在 10 教区あり、すべての教区に DISAC が設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 DISAC の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランブーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホングソーン県の北部 8 県である。

チェンマイ教区 DISAC の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族（リーダー育成グループ、米配給）、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

DISAC は現在まで 30 年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行ってきたが、2004 年度よりニッポー神父やパイロット神父が中心となり、ピトゥ（DISAC・農業専門スタッフ）とナハー（ラフ族出身で村在住）と共に、ラフ族が抱えている問題について解決していくための活動を展開している。

ニッポー神父が所長を務めるチェンマイ市郊外にある RTRC(Research and Training for Religio - Cultural Community)は、少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共にセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。RTRC 内にはラフ族事務所が設置されており、日笠山と松本はここに属する。また、活動拠点地は RTRC に加え、赤ラフ族の住むポンパー村（チェンマイ県メーアイ郡）である。

2006 年 5 月より教育支援が本格化し、2008 年 3 月現在で 18 名（メーサイ 10 名、パン 1 名、プラオ 7 名）の子どもたちが村から離れて勉強に励み、今年で 3 年目になるが、3 月末時点で 3 名が退学した。不仲、家族の健康問題、家庭の家計、学習意欲の欠如などが退学原因である。また、プラオの寮の新建設において近所住民との対立から建設中止の運びになったことは村で進学を待望する子どもたちが多くいる中、非常に残念なことであった。この数年間の活動の中で新たな問題点、改善点が浮上し、村人とスタッフの間に溝が出来つつあることは否定できないが、よりよい人間関係を土台とした活動の改善、発展は村のみならず私たちの未来にとって重要であり、JLMM の派遣者はそれに十分寄与できる重要な位置にいるといえる。

日笠山と松本が活動を行った。

2. 活動概要

1) ポンパー村からメーサイの聖家族カトリックセンターに入学（5 月 1 日）

チェンマイから北に約 20 キロ行ったところにある赤ラフ族の村、ポンパー村では、初等教育以上の教育を受ける機会がほとんどない。結婚という道しか残されていない少年少女のために教育の場を提供する活動をスタッフと共に行った。

進学先はチェンライ県メーサイにある聖家族カトリックセンター（ベテラム会）で、6 名の 12、13 歳女子の進学が決定した。学年に応じた学力が伴っていないことから、基礎的なタイ語での読み書きをセンターで学びながら、裁縫の技術を身につけ、将来独立して生活することが出来るように手助けする。2006 年は 5 名（1 名はすでに退学）、2007 年 5 月に 3 名の女子（そのうち 1 名は小学生）が入学面談。うち 1 名は 13 歳以下のため、センターにて入学の是非を巡っての保護者面談。結果、条件付（生活は他小学生と共にする）で入学は認められた。

2) 聖家族カトリックセンターへ付き添い（6 月 22 日）

帰省していた少女たちとメーサイまで行動をともにした。

3) 聖家族カトリックセンターにて入学面談のため、村から女子 3 名引率（6 月 29 日）

入学規定に抵触する恐れのある少女 1 名との保護者面談がセンターで実施された。結果、入学が認められた。

4) ポンパー村少女 1 名、他県学校への進学を巡り村会議

重要な決定事項は、ポンパー村全体会議に掛けられるため、パイロット神父、ピトゥと共に参加

した。

5) 少女2名、RTRC（共同体の宗教・文化の為の研修研究所）滞在後、チェンライ県パンの学校入学（7月27日～8月2日）

事情によりパンの、「よき牧者の会」運営の学校に入学することになった少女2人が入学までの間、RTRCにて待機することになった。

6) 少女父母面会のため、「よき牧者の会」運営のチェンライの学校へ付き添い（10月4日）

学校側からの許可が下り、面会が許された。

7) ポンパー村会議（10月26日、27日）

RTRCで開催されたラフ会議の開催後、参加者の中からフォローアップの必要性を問う声が出たため、ポンパー村のトボー（宗教指導者）を始めとしたトボー、ネボー（宗教指導者補）を中心に開催された。大人の会議開催前にはポンパー村の子どもの対象とした会議も開催（主に村の規則について）。

8) 洗剤液作り

環境に優しく経済的な洗剤作りに挑戦。完売し売り上げはわずかながらにあったが、村人の大半は大量生産の安い洗剤を好む。

9) プラオ寮にてクリスマスイベント（12月21日）

グンター氏（プラオ寮支援者）や関係者と共にクリスマスを祝う集い。

II RTRC 関係活動

1) ラフ会議（9月17日～21日）

ラフ族の宗教指導者が一堂に会する年1回開催される大きな会議。

参加者は年々減っているようだが、その分、目的意識を持った人が目立ってきた。今回はメーホンソン県からも初の参加があった。村ごとに諸問題などを話し合いプレゼンテーションを行ったが、言葉の問題等が原因で、疑問の声もあがったため、ポンパー村トボー（宗教指導者）が村での会議開催を決定した。

2) 少女12名対象自己開発プログラム（10月15日～17日）

村や自分のことを理解することで、進学をどのように考えるかということと共に学び考えるためのプログラムを行った。

3) 月ラフ・ミーディング

毎月末にラフ族デスクのメンバー（パイロット神父、ピトゥ、シスター・イー、ピイー、松本、日笠山）とナハー、ジャハーが参加し、主に活動に関して話し合いの場が持たれた。問題や課題は多いものの、これまでそれぞれが活動をして話し合う機会が全く無かったためにまとまりがなく、改善が見込まれなかったが、これを機に少しずつ改善されつつある。

4) 教育関係

メーサイにある聖家族カトリックセンターを訪問。センターの方と、ポンパー村の子どもたちの学習状況、生活状態、また村での様子を報告。相互の活動方針を随時確認した。不定期開催。

プラオ（ポンパー村から車で約2時間）にある公立学校で、ポンパー村の子どもたちの一部が学習している。彼らが共同生活する寮や学校を訪問し、生活状況、学習状況を確認した。また、学校職員と現状、問題点等を話し合った。不定期実施。

こうした話し合いの中で、14歳の少女が行方不明となり、誘拐され、人身売買の被害にあった可能性が高いことが判明した。現在、人身売買被害者を保護する NGO 団体などの協力を得て、捜索中。ラフ・デスクでは人身売買による被害者のケースは扱っておらず、今回のケースをどのようにしていくかも、まだ方針は決まっていない。また、学校との共同計画で、寮移転を計画。移転予定地近隣の住民の了解が得られず、一時計画を見合わせる。現在、移転予定地を変更し、建設が始まっている。

2008年度より、音楽授業の依頼を受けている。日程等は未定。

5) ラフ族女子対象自己開発プログラム（年2回）（松本）

RTRC において、DISAC スタッフと協力し行われた。レクリエーション時、音楽を担当。

6) カトリック系 NGO、団体などとの協働（日笠山）

a) シンガポールの MAG (Mission Awareness Group) 来タイ。

赤ラフ村にて合流（11月11日）。最終日に夕食会（11月13日）

活動などと重なったため、全日程参加は出来なかったが、赤ラフ村訪問と夕食会に参加。これから共に活動ができるようにと情報交換など行った。

b) Fimac 韓国来タイ

夕食会開催（11月29日） ヨーロッパ、アジアで農業や若者が直面する問題についてなど意見交換した。

III チェンマイ教区および教区社会活動センター (DISAC) 関係

1) DISAC 主催女性セミナー（松本）

DISAC が主催する女性対象のセミナーに参加（3月）。生活の中に、聖書を積極的に取り入れていこうとするもの。セミナー開催中のミサ時の伴奏を担当した。

2) サンカムペン（チェンマイ市郊外）にて農業（木搾液）セミナー（4月15日）（日笠山）

地元の農家を訪問し木搾液作りを見学した。

3) DISAC スタッフへのキーボード指導(週1回)、聖歌練習伴奏担当(不定期)(松本)

IV ウボンラット学校

ウボンラット(Princess Ubonrat)学校は、王室のウボンラット基金によって1993年に設立。シャルトルの聖パウロ修道会によって運営され、人身売買や家庭内暴力、HIV/AIDS などの深刻な問題

に巻き込まれている子どもたちに寮の提供や教育を行っている。

1) 6月5日よりウボンラット学校で英語指導（日笠山）

（火曜日） 10：00－12：00 教職員、シスター対象（数人）の英語クラス
13：00－15：00 小4（8名）、小6クラス（4名）

（水曜日） 8：30－10：30 中3（45名）2クラス

10：30－11：30 シスター対象の英語クラス

2) 英語キャンプ（日笠山）

バンコクの大学生を招いて、全校生徒対象の英語キャンプ。

3) クリスマス会参加

生徒および教師が出し物を披露。松本も手伝いとして参加した。

4) 卒業式（2月16日）と退任式

中学3年生の卒業式と退任式に参列した。

V サンカムペン中学高等学校（サンカムペンスクール）

1. 対象地域と地域概要

チェンマイ市内から、約20kmの郡立中高一貫校である。生徒数約1,800名。チェンマイでは中規模の学校になる。ほとんどの生徒が、近隣の地域から通学している。100名ほどが学校に隣接している寮から通学。学校周辺は、有名な傘の産地であるため大型の観光バスが行き交う観光地である。サンカムペンスクールの生徒たちの両親のほとんども、商売に関わっている。生徒たちも帰宅後や休日は、家の手伝いに追われている。そのためか、大学への進学希望者よりも、技術校などへの進学希望者が多い。

学校の方針として、語学には重点が置かれている。英語・フランス語・中国語・日本語に分かれている。日本語は英語の次に生徒数が多いが、卒業後も続ける生徒は最も少ない。

日本語のクラスでは、これまでタイ人教師による授業が行われており、平仮名での読み書きは、どの生徒も特に問題はない。しかし、漢字・会話の授業は、ほとんど行われていなかったと言ってよい。これはサンカムペンスクールに限ったことではなく、タイ全体の日本語教育現場での問題点ということである。タイ人教師自身が、漢字・会話を不得手としているため、授業は文法中心となってしまうのが現状である。また、タイの教育現場で、生徒に発言させるということはあまり熱心に行っていないのが現状である。

現在、サンカムペンスクールでは週3日（月水金）活動を行っている。高校1年生から3年生の日本語授業を、タイ人教師と分担して行っている。主に、会話と漢字の授業を担当。サンカムペンスクールでの活動は松本が担当した。

2. 活動概要

1) 日本語クラス授業（週3日）

高校1年生～3年生の漢字・会話の授業を担当。

2) 日本語検定試験受験希望者の補習

同僚のタイ人教師が生徒からの希望で始めたもので、放課後、1時間半行っている。

チームティーチングで授業を行っている。

3) チェンマイ市内高校生スピーチ大会

校内での選抜、スピーチの文章作成・スピーチの指導。サンカムペンスクール主催のため、会場設営、当日の運営を補助。日本語部門の審査を担当。

その他、生徒がスピーチ大会等に参加する場合の指導を行っている。

V YPD (Young People for Development) 活動関係

1) カレン・トレーニング・プログラム (4月11日～16日)

ビルマ側から8名の参加者

2) YPD 国際会議 IN カンボジア (7月12日～22日)

アジア・ヨーロッパからの若者60名が集い、Enterprise and Innovation for Environment のテーマをともに話し合った。

3) YPD チェンマイ・チーム会合 (9月15日)

YPD カンボジア報告と今年の活動方針について

4) YPD インターナショナル・チーム秘書と共にローカルチーム訪問

ラオスにおける「水プロジェクト」やビルマ内でのトレーニング・プログラム開催に向けた情報収集のため実施。

a)ラオス・チーム (ビエンチャン) 訪問 (11月15～18日)

b)チェンマイ・チーム (チェンマイ) 訪問 (11月21日)

c)カレン・チーム (タイ・ビルマ国境) 訪問 (11月23日～25日)

5) CCI (Cardijn Community International) 国際シンポジウムのため、インド (チェンナイ) 訪問 (日笠山)

CCIはYCSやYCWの創立者であるCardijn枢機卿の精神に生きることを目的としたムーブメントで、YPDもこの精神を汲んでいる。CCIのテーマは Sustainable Development through Education, Dignity and Harmony

a)Jeeva Jyothi (ストリート・チルドレンや女性と共に活動) と他NGO (知的障害の子どものために活動) 視察 (2月20日～21日、26日)

b)国際シンポジウム (2月23日～25日)

c)インド青年たちとの会合 (2月21日、27日)

6) YPD インターナショナル・コーディネーター来タイ

a)木窄液作り視察のため、ダイサックスタッフと共にチェンマイ内の活動地へ (3月10日、11日)

b)チェンマイ・チームとの会合 (3月11日)

c)インターナショナル・チーム会合

VI ミャンマー(ビルマ)関係

ニッポー神父主催によるビルマから7名、タイから1名のカチンの人々を対象とした研修が、RTRCにおいて2007年6月から9月の3ヶ月間開催され、不定期に参加した。その際、ビルマ・カチン教区より司教の訪問があり、JLMMの活動を紹介した。

研修を計画したチェンマイ在住のビルマ・カチン州出身のスチャート氏は、チェンマイやビルマ・タイ国境近くなどで、カチンの若者を対象にしたトレーニング・プログラムなど、多岐にわたって活動している。スチャート氏が、自身の活動と JLMM との連携を希望。活動は、国境近辺でのトレーニング・プログラムや、若者を対象にした農業などの技術指導。また、ビルマ国内のスタッフとも協力し、ビルマ・タイ・日本との連携体制を希望している。

同スチャート氏からの紹介により、KWAT (Kachin Women's Association Thai) を訪問。ビルマ・カチン州及びビルマ・中国国境地帯の人身売買の現状を聞く。日本にある在日カチン女性協会の紹介を受け、2008 年度、日本において『DV スペシャリスト協会』（全国の地方自治体の婦人相談員を中心に作られた法人団体）の研修での講話を依頼した。

VII その他の活動

1) サンカムペンスクールにて日本祭。コロッケ屋出店（8月17日）

CDC（チェンマイ在住日本人の会）の方の協力を得て、コロッケ屋台を出店した。

2) ラオス滞在と査証取得

ビザ申請更新のため、ラオス（ビエンチャン）滞在（6月22日～24日）した。その後、労働許可証申請（7月9日）をし、受理。そして、無事取得（8月15日）した。

3) クレディット・ユニオンにて語学教室（日本語、英語）実施（10月7日～2月）

松本が日本語、日笠山が英語を30分ずつ指導した。1名～5名ほどの小中学生の参加があった。

4) チェンダオの NGO (Makhampom) 視察（11月27日）

演劇によって問題解決方法を考えることを助ける NGO。ウボンラット学校も密接なつながりがあり、時折生徒たちの見学も行われている。

5) スタディーツアー（12月26日～1月4日）

JLMM 主催スタディーツアーを受け入れた。2名の参加者と共にラフ族村にホームステイをし、村人とともに年越しを楽しんだ。

6) 「アジアの風」受け入れ

スタディーツアーグループ「アジアの風」参加者のために、聖家族カトリックセンターから商品を買付け（1月12日）。短時間での販売を行った。例年実施の恒例行事。

7) 早稲田大学（日本）・韓国大学生交流プログラム（2月）

活動体験談を日本・韓国の学生と分かち合う

8) パタヤ・レイミッシュヨナリー会議参加（11月5日～9日）

アジアで活動する7名の信徒宣教者と事務局スタッフ3名、茅根運営委員長、指導司祭（レイモンド神父）がパタヤに集い、分かち合いを行った。

9) サンカムペンスクール生徒へキーボード指導

週1回松本が生徒へキーボード演奏指導を行った。

10) バーンサバイ（HIV/AIDS シェルター）でのボランティア活動（不定期）

チェンマイ近郊にあるシェルター施設「バーンサバイ」において、ボランティアとして関わった。（松本）

11) バーンサンタ（児童養護施設）での音楽指導（不定期）

児童養護施設「バーンサンタ」において音楽指導ボランティアとして関わった。（松本）

12) ワイルドフラワー（女性保護施設）滞在中の子どもたちへの音楽指導

女性保護施設「ワイルドフラワー」において、週1回滞在中の子どもたちに音楽指導ボランティアを行った。(松本)

1.3) その他

a) 漆原事務局長来タイ (4月17日～23日)

b) 北村氏 (JLMM 派遣希望者) 活動地視察 (6月27日～29日)

(3) 東ティモール民主共和国

1999年に発足した東ティモール東部ラウテン県ロスパロス郡トリスラ地区でプライマリ・ヘルスケアの普及啓発活動を行う現地国際NGO「東ティモール医療友の会 (AFMET)」に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2006年1月3日、佐藤邦子(名古屋教区)をコーディネーターとして派遣した。2006年5月には東ティモール国内において騒乱があり、外務省から避難勧告が通達され、日本へ一時帰国するという事態となった。

2006年9月末、東ティモール国内がある程度落ち着きを取り戻したため、再度派遣し、活動を再開。2007年4月一時帰国し、報告会等を行った。

I プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

A. 人材育成 (Capacity Development)

(1) CHW (Community Health Worker) による村でのセミナーの開催促進と実績

CHWによる村民対象のセミナーの開催を促進・補助し、多くの村落でセミナーが実施された。9、10、11月は第7ブロックでの基礎調査、説明会開催などを行ったため実施回数が少なかった。また2008年からはラウテン県でPHCの普及活動を行っている国際NGO、Médicos Do Mundo(MDM-世界の医療団)との共同セミナーや毎月実施されているポリオの予防接種の予定日にあわせてセミナーを開催することによって、参加者増を図った。それに伴い、セミナー内容も母子保健や栄養に関することなど必要かつ関心の高いトピックスを取り上げるCHWも増える結果となった。

表1 CHWによる村落でのセミナー実績

| 年月 | グループ名 | | | | | | | | | |
|--------|----------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 第1-2ブロック | | 第3ブロック | | 第4ブロック | | 第5ブロック | | 第6ブロック | |
| | セミナー回数 | 参加者数 | セミナー回数 | 参加者数 | セミナー回数 | 参加者数 | セミナー回数 | 参加者数 | セミナー回数 | 参加者数 |
| 2007.4 | 3 | 48 | | | 1 | 7 | | | | |
| 5 | | | 2 | 142 | 1 | 33 | 1 | 15 | 1 | 111 |
| 6 | | | | | | | 1 | 11 | | |
| 7 | 1 | 14 | 3 | 253 | 1 | 22 | 1 | 22 | | |
| 8 | | | 1 | 37 | 1 | 33 | 3 | 96 | 1 | 11 |
| 9 | | | | | | | 1 | 22 | 2 | 62 |

| | | | | | | | | | | |
|--------|----|-----|---|-----|---|-----|----|-----|---|-----|
| 10 | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | |
| 2008.1 | 1 | 20 | | | 1 | 77 | 2 | 91 | 1 | 33 |
| 2 | 1 | 52 | | | 1 | 78 | 2 | 161 | 2 | 64 |
| 3 | 2 | 85 | 2 | 150 | | | | | | |
| 合計 | 8 | 219 | 8 | 582 | 6 | 250 | 11 | 418 | 7 | 281 |
| 昨年度 | 14 | 310 | 6 | 387 | 5 | 180 | 27 | 575 | 2 | 32 |

(2) CHW の知識、技術向上 (アドバンス・セミナー)

CHW 養成セミナーを終了し、現在各村で活動中の CHW を対象としたアドバンス・セミナーを4ヶ月に1回の頻度で実施した。本年度は、特に母子保健に重点をおき、ラウテン県で母子保健を中心とした PHC 普及活動を行っている MDM から講師を招聘し、離乳食の作り方実習を含む栄養指導に重点を置いたセミナーを実施した。また、CHW 連絡協議会 (CCC : CHW Collaboration Committee) に関する説明も行った。

表2 2007年度アドバンス・セミナー

| | |
|--|--|
| 第1回(6月) トピックス:薬草の使用方法 | 参加者:71名 第1&2ブロック:6名 第3ブロック:13名 第4ブロック:17名 第5ブロック:21名 第6ブロック:14名 |
| 第2回(11月) トピックス:HIV/栄養(離乳食の作り方実習)/CCCの説明 | 参加者:69名 第1&2ブロック:16名 第3ブロック:15名 第4ブロック:13名 第5ブロック:9名 第6ブロック:16名 |

(3) CHW の育成 (第7ブロック)

Lore I ; Chai、Titilari、Maloru、Ochochau、Horolate、Vailana、Lore II ; Haitupuka、Ililapa、Nuhate の9つの村において、第7ブロック CHW の養成を開始した。

9月10日： 第7ブロック村の主要メンバー (村長、ヘルスポスト看護師、学校教師、カテキスタ他) に対してプロジェクト概要の説明会開催と CHW 候補者選出の要請を行った。それに続いて CHW 候補者に対するプロジェクト概要の説明会の開催と基礎調査協力依頼した。

9月11日-10月3日： 第7ブロック対象地区、9つの村での基礎調査を実施した。

11月14日～： CHW 養成のためのトレーニングセミナーを Horolata 村で毎月2日間開催し、26名の CHW 候補生が受講した。

表3 第7ブロック CHW 養成セミナー一覧 2007年11月から2008年3月まで

| 年月 | セミナー内容 | 参加者数 |
|---------|------------------------------------|------|
| 2007.11 | 導入/PHC/健康と疾患/マラリア/体温測定 下痢/上気道感染 | 26 |
| 12 | HIV/AIDS/口腔衛生 ハンセン氏病/目の健康 | 26 |
| 2008.1 | 母子保健/予防接種 デング熱/寄生虫 | 25 |
| 2 | 皮膚疾患/喘息 栄養/栄養失調 | 13 |
| 3 | 雨による道路崩壊のため中止 | |

(4) CHW 連絡協議会 (CCC : CHW Collaboration Committee)

2007年度第2回アドバンス・セミナーにおいて現在活動中のCCC設立の趣旨を説明した。各ブロック1～2名のメンバー候補者を選定した。

B. 生活保健助け合いの会 (Cooperative Group)

CHW が活動する各村落において、CHW だけではなく住民も自ら参加し、PHC をより身近なものにしていくため、「生活保健助け合いの会(Cooperative Group)」設置を計画した。同助け合いの会は、薬草の栽培及び活用、また石鹼製造などを行い、実践面からPHCを実施していく。

2008年3月、生活保健助け合いの会の活動に関する計画作りを実施(PDM作成)、アドバンス・セミナー開催時にCHWに説明した。

II 公的保健・衛生活動への協力事業

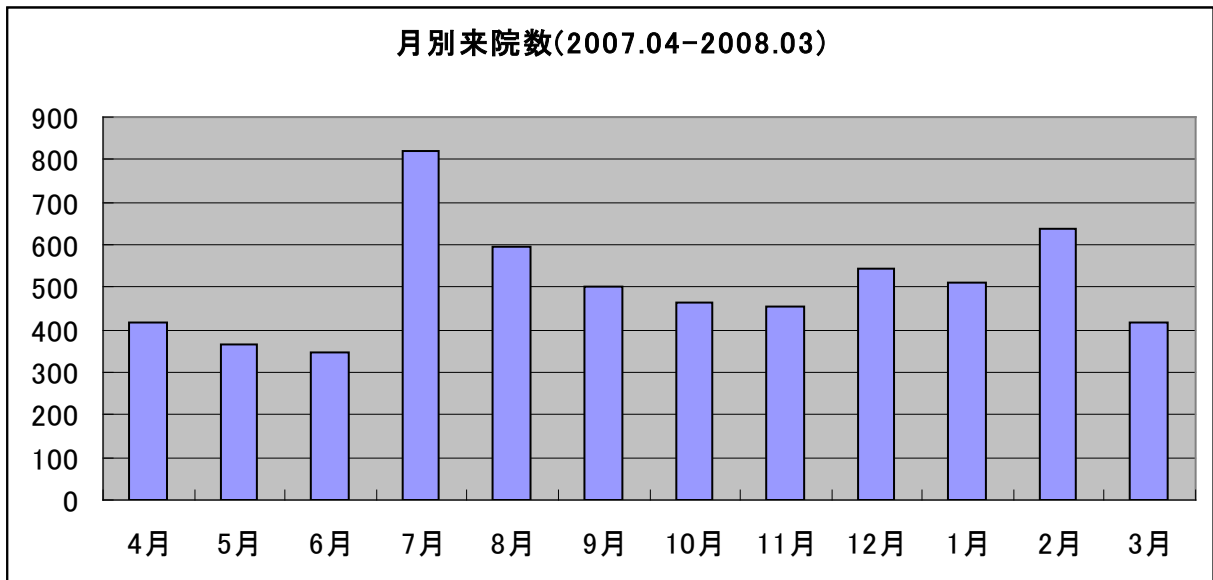
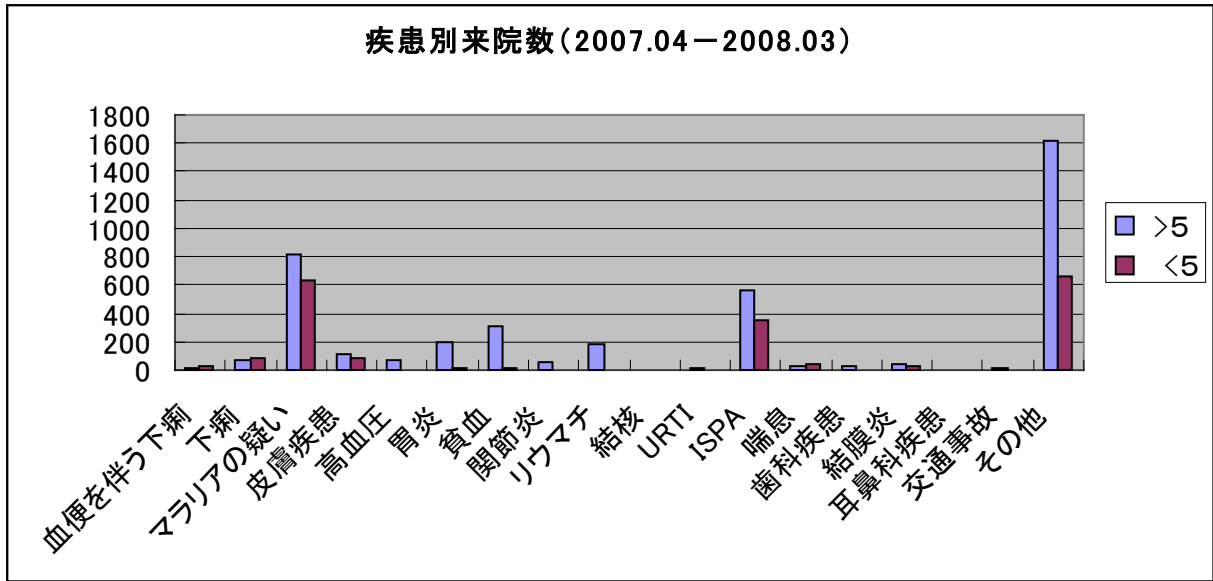
(1) クリニック業務の継続と充実

AFMET リフェラルセンターをクリニックとして利用、クリニック業務を月・火・金曜日の午前8:00から11:00まで実施した。

県保健局からラウテン県ヘルスポストとしての正式認定を受け、薬の安定的供給ならびに看護師の派遣を受けられるようになり、公的医療機関として活動した。

疾患別、月別の患者数は以下のとおり。

グラフ1 来院者数（5歳児以上/未満）と疾患内容



また、薬草を使用した軟膏をつくり、クリニックで処方した。

(2) 患者訪問と救急搬送

2007年度は国立病院に救急車が常備されたが、前年度に比べ救急搬送依頼件数が増加傾向にあった。

表2 患者訪問と救急搬送実績 件数/回数

| 年月 | マラリア | 下痢 | 風邪 | 出産 | 外傷 | 事故 | その他 | 合計 |
|----------|------|----|----|----|----|----|-----|----|
| 07.04~06 | 5 | 1 | 1 | 8 | 3 | 16 | 14 | 48 |
| 07~09 | 2 | 1 | | 9 | 11 | 7 | 10 | 40 |
| 10~12 | 9 | 1 | 2 | 15 | 7 | 3 | 11 | 48 |

| | | | | | | | | |
|----------|----|---|---|----|----|----|----|-----|
| 08.01～03 | 7 | | | 5 | 4 | 3 | 9 | 28 |
| 合計 | 23 | 3 | 3 | 37 | 25 | 29 | 44 | 164 |

(3) 政府結核 (TB) プログラム

今年度も例年どおり、政府結核(TB)プログラムに参加した。TB 患者 1 名が AFMET クリニックにて治療を受けた。

7 月 24 日： 世界保健機関 (WHO) の結核専門家視察受け入れ。

(4) 保健省 (MOH) との協働

4 月 14-19 日： Vikeke において MoH 主催の DTT (District Trainers Team) トレーニングのトレーナーとして AFMET スタッフがナショナルトレーナーとして協力した。

4 月 19 日： MOH アドバイザーのエディ氏と JICA 草の根技術協力事業の展開について、調整を行った。

9 月 28 日： MOH 主催の HIV/AIDS キャンペーンにおいて AFMET ローカルスタッフが講師として参加した。

11 月 21-22 日： MOH 主催政府家庭保健促進プログラム (FHPP : Family Health Promoter Program) プログラムのミーティングに AFMET スタッフ 2 名が出席した。

12 月 3 日： MOH ヘルスプロモーション担当者と懇談し、プロジェクト進捗状況説明をした。

2 月 16 日： MOH 主催 栄養キャンペーン、ビタミン A 配布に協力した。

(5) 県保健局(DHS)との協働

9 月 5 日： ラウテン県保健局(DHS)担当者および保健関係 NGO に対するプロジェクト概要説明会を開催。

10 月 16 日： DHS・TB プログラム担当者による AFMET メディカルスタッフを対象としたセミナーを開催。

11 月 3 日： DHS 担当者と協力して第 7 ブロック住民に対するプロジェクト概要説明会を開催。

1 月 18 日： DHS 主催地域保健センター(CHC)ミーティングに参加。

1 月 25 日： AFMET 主催により、DHS、CHC ロスパロスのチーフ、MDM コーディネーターとともに SISCa(Servico Intefarado de Saude Comunitaria)の今後の展開について話し合った。

III 人材の育成・研修事業

(1) 他団体 (NGO) との協働

10 月 23 日： 「MDM」主催の FHPP についてのセミナーに AFMET スタッフが講師として参加。

11 月 29 日、12 月 5、6、12、13、19、20 日： AFMET のアドバンス・セミナーに「MDM」のスタッフが講師として出席。

12 月 2-4 日： アイレウ県で活動している NGO、「SHARE」を訪問し、お互いの活動について話し合った。

2 月 28-30 日：「SHARE」主催の DTT トレーニングに AFMET スタッフ 3 名が参加した。

3 月 6 日： SHARE と共催 (JICA 後援) で MOH、DHS のヘルスプロモーション担当者、アドバイザーおよび他の PHC 活動を行っている NGO 関係者を招いてのワークショップをディリで開催

した。

IV その他の活動

(1) 報告会

2007年4月1日 カトリック平針教会

2007年4月15日 カトリック南山教会

(2) パタヤ・レイミッシヨナリー会議参加 (11月5日～9日)

3. 調査活動

(1) カンボジア 2007年7月、8月、9月、2008年2月、3月

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動並びにコンポンルアンでの活動の視察、調整をスタディーツアーと兼ねて行った。

(2) タイ 2007年4月、2008年1月

チェンマイ DISAC を訪れ、現地での活動状況視察を行った。

(3) 東ティモール 2007年6月、2008年1月

現地 AFMET を訪れ、事業の運営についての調整などを行った。

4. 研修

本年度は、研修を行わなかった。

5. 派遣

本年度は、派遣を行わなかった。

6. 派遣候補者の募集と選考

2008年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2007年8月より開始した。

今年度は、応募者の獲得と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施し、全国から多くの参加を得て、JLMMの活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

派遣候補者募集説明会

日時：2007年9月29日(土) 15時から17時30分

会場：フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

また、派遣候補者には5名の応募があり、2007年11月23日(金)に派遣候補者選考試験を実施。3名の合格があった。

7. 帰国黙想会

帰国者がなかったため実施しなかった。

8. レイミッションナリー会議

2001年9月から6年ぶりに、派遣されている信徒宣教者が一堂に集うレイミッションナリー会議を実施した。

テーマを「What is God calling you to ?」とし、「わたしは何に呼ばれているのか」、「JLMMは何に呼ばれているのか」を黙想し、分かちあう他、各国の活動状況や課題などを報告した。

開催期間：2007年11月5日（月）から9日（金）

開催会場：タイ パタヤ Redemptorist Center

P.O.Box 6 Pattaya City Banglamung Chonburi 20260, Thailand

参加者：カンボジア：浅野美幸、杉村太郎、高橋真也、重富浩子

タイ：日笠山万希子、松本和歌子

東ティモール：佐藤邦子

運営委員：茅根史男運営委員長

指導司祭：デロシェ・レイモンド

事務局：漆原比呂志、辻明美、金山重之

OB：坂野一生

（計13名）

スケジュール：

| 日付 | 内容 |
|---------|-------------------------------------|
| 11/5（月） | オリエンテーション、開会ミサ |
| 11/6（火） | 活動紹介、プロジェクトミーティング カンパニーミーティング、黙想 |
| 11/7（水） | 黙想 分かち合い |
| 11/8（木） | まとめ 派遣のミサ |
| 11/9（金） | レクリエーション |

9. チャリティーコンサート

実行委員会形式によりチャリティーコンサートを開催。

今年度は、名古屋を中心に活動されているサックス・プレーヤー2名の協力を得て、東京教区と横浜教区の教会聖堂にて実施した。

チャリティーの目的をカンボジア・コンポンルアン水上村活動支援とし、水上村での活動や風景映像を演奏とともに投影し、聖書朗読とともに演奏を聴くなど、趣向を凝らした。1月開催という寒い時期に関わらず多くの入場を得て、盛況のうちに終了した。

～カンボジア・コンポンルアン水上村活動支援のための～
サクソで奏でる教会音楽の調べ

東京教区 カトリック目黒教会聖堂

開催日時：2008年1月11日（金）19時開演（18時30分開場）

来場者数：130名

横浜教区 カトリック由比ガ浜教会聖堂

開催日時：2008年1月12日（土）14時30分開演（14時開場）

来場者数：260名

奏者：所克頼、竹内幸枝、辻明美、大岡敦子（敬称略）

演奏内容：アヴェ・マリア、キラキラ星の主題による変奏曲より、イタリア協奏曲、G線上のアリアほか

10. CAMBODIA DAY

カンボジア・スタディーツアー参加者が通算100名を越えたことから、ツアー参加者の同窓会を兼ねた「CAMBODIA DAY」を企画、開催した。

当日は、一時帰国中の杉村太郎、高橋真也によるカンボジア活動報告、ツアーの風景を記録したイメージ映像、ツアー参加者の感想文発表などを交え、約90名の参加者とともにカンボジアでの体験や思い出を分かち合った。

開催日時：2007年6月23日（土）午後2時

開催会場：六本木フランシスカン・チャペルセンター 地下ホール

11. 広報

(1) ミッション（ニュースレター）発行 他

ミッション№117～122 計6号を以下のとおり発行した。

| No | 発行日 | 部数 | 内容 |
|-------|------------|--------|--|
| No117 | 2007年5月28日 | 3,000部 | ・新派遣候補者からのレポート第一弾！ ・タイからの手紙 ・カンボジア便り ・イベント情報！「CAMBODIA DAY」開催 |

| | | | |
|-------|-------------|--------|---|
| No118 | 2007年8月6日 | 3,000部 | <ul style="list-style-type: none"> ・JLMM イベント「CAMBODIA DAY」開催のご報告 ・カンボジアからの手紙 ・東ティモールからの手紙 ・平和祈念募金ご協力のおかげ ・石川神父様ご帰天のお知らせ |
| No119 | 2007年10月30日 | 3,000部 | <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアからの手紙 ・東ティモールからの手紙 ・タイからの手紙 ・カンボジア・屋台プロジェクト&水浄化プロジェクト始動ご報告 |
| No120 | 2007年12月21日 | 3,100部 | <ul style="list-style-type: none"> ・特集！ 第2回レイミッシヨナリー会議開催 ・訃報 ステファノ濱尾文郎枢機卿様ご帰天のお知らせ ・クリスマス献金のおかげ ・スタディーツアーのお知らせ |
| No121 | 2008年2月8日 | 3,100部 | <ul style="list-style-type: none"> ・JLMM チャリティーコンサート開催 ・JLMM タイ・スタディーツアーに参加して ・カンボジアからの手紙 ・各国の近況 ・お知らせ |
| No122 | 2008年3月27日 | 3,100部 | <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアからの手紙 ・東ティモール便り ・タイからの手紙 ・東ティモール報告会のお知らせ ・イースター募金のおかげ |

(2) 広告掲載等

カトリック新聞 月1回年20回広告掲載。()は掲載サイズ

2007年4月1日 イースター募金 (通常/2段5cm)

2007年4月15日 イースター募金 (通常)

2007年4月22日 イースター募金 (通常)

2007年5月20日 スタディーツアー カンボジア参加募集 (通常)

2007年5月27日 スタディーツアー カンボジア参加募集 (通常)

2007年6月17日 スタディーツアー カンボジア参加募集 (通常)

2007年6月24日 スタディーツアー カンボジア参加募集 (通常)

2007年7月15日 平和記念募金 (大/3段1/4)

2007年8月12日 派遣候補者募集 (大)

2007年9月23日 派遣候補者募集 (大)

| | |
|-------------|----------------------|
| 2007年10月14日 | 派遣候補者募集（大） |
| 2007年11月11日 | スタディーツアー タイ参加者募集（通常） |
| 2007年11月18日 | スタディーツアー タイ参加者募集（通常） |
| 2007年12月9日 | クリスマス募金（通常） |
| 2007年12月16日 | クリスマス募金（通常） |
| 2007年12月23日 | クリスマス募金（通常） |
| 2008年1月20日 | 中高生スタディーツアー参加募集（通常） |
| 2008年2月17日 | イースター募金（通常） |
| 2008年3月16日 | イースター募金（通常） |
| 2008年3月23日 | イースター募金（通常） |

（3）チラシ配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

| | |
|--------|----------------------|
| 平和祈念献金 | 20,000 部作成（2007年7月） |
| クリスマス | 20,000 部作成（2007年11月） |
| イースター | 18,000 部作成（2008年3月） |

JLMM 活動紹介リーフレット（カラー、A4 版三つ折）を新規に作成、配布した。（5,000 部）

（4）新聞・雑誌記事掲載

| | |
|-------------|-------------------------------|
| 2007年4月22日 | カトリック新聞 25周年迎えた JLMM の今 |
| 2007年5月25日 | JP 通信№144 キリストに生きる |
| 2007年7月25日 | JP 通信№145 キリストに生きる |
| 2007年7月8日 | カトリック新聞 CAMBODIA DAY |
| 2007年8月1日 | カトリック生活8月号 信徒力 |
| 2007年8月12日 | カトリック新聞 扉をあけて元気さん（杉村太郎） |
| 2007年9月1日 | きずな№100 帰国中の体験から（高橋真也） |
| 2007年9月27日 | 秋田さきがけ 糧はゴミ山から屋台へ |
| 2007年11月20日 | Vista 第2号 この国で生きていくしかない（杉村太郎） |
| 2007年12月1日 | きずな№101 ボランティアとの心の交流（高橋真也） |
| 2007年12月7日 | NyoNyum №32 希望をつなぐ |
| 2007年12月2日 | カトリック新聞 レイミッシヨナリー会議報告 |
| 2008年2月1日 | 聖母の騎士 カンボジアにて（高橋真也） |
| 2008年3月1日 | 聖母の騎士 この人(近藤西紀) |

12. 報告会・説明会

| | | |
|----------|---------------|---------------------|
| カンボジア報告会 | 2007年6月10日（日） | カトリック新潟教会（高橋） |
| | 2007年6月12日（火） | 新潟教区司祭の集い（高橋） |
| | 2007年6月15日（金） | 聖ウルスラ学院英智高等学校講義（高橋） |

| | | |
|-----------|----------------|----------------------|
| | 2007年6月17日(日) | カトリック米沢教会(高橋) |
| | 2008年6月23日(土) | フランシスコ会ヨゼフ修道院 |
| | 2007年6月24日(日) | カトリック藤沢教会(高橋) |
| | 2007年7月8日(日) | カトリック吹田教会(杉村) |
| | 2007年10月8日(月) | カトリック糸魚川教会(浅野) |
| | 2007年10月14日(日) | カトリック山手教会(浅野) |
| 東ティモール報告会 | 2007年4月1日(日) | カトリック平針教会 |
| | 2007年4月15日(日) | カトリック南山教会 |
| スタディーツアー | 2007年7月1日(日) | 専修大学 SIA スタディーツアー報告会 |
| 派遣募集説明会 | 2007年9月29日(土) | フランシスコ会ヨゼフ修道院1階ホール |
| その他 | 2007年5月21日(月) | 横浜市立境木小学校講演(漆原) |
| | 2007年6月11日(月) | 新潟清心女子中高等学校理事長訪問 |
| | 2008年1月20日(日) | カトリック宮崎教会 信仰養成講座講演 |
| | 2008年2月6日(水) | 清泉中学校講義 |

13. バザー・イベント等への参加・企画協力

| | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 2007年4月22日(日) | カトリック雪ノ下教会 福祉バザー出展 |
| 2007年9月15日(土) | 聖心大学 宮代祭 出展 |
| 2007年9月29日(土)・30日(日) | 暁星中学高等学校 文化祭企画協力 |
| 2007年10月6日(土)・7日(日) | グローバル・フェスタ(日比谷公園)出展 |
| 2007年10月13日(日) | カトリック小金井教会 バザー出展 |
| 2007年10月21日(日) | カトリック立川教会 バザー出展 |
| 2007年10月27日(土)・28日(日) | カトリック山手教会 バザー出展 |
| 2007年10月23日(日) | カトリック雪ノ下教会 バザー出展 |
| 2008年3月23日(日) | 第5回ユース国際ボランティアフォーラム 企画協力 |
| 2007年度(通年) | 横浜雙葉中学高等学校 総合学習企画協力 |

14. スタディーツアー

諸団体からの依頼、会員や一般参加者に向けスタディーツアーの企画を行った。

(1) ニコラバレグループ カンボジアスタディーツアー(体験ボランティア付)

2007年7月17日～23日 スタディーツアー 参加者6名

行程: プノンペン→コンポルアン→シェムリアップ

2007年7月24日～8月15日 体験ボランティア

プノンペン、コンポルアン 参加者3名

(2) 日本女子修道女総長管区長会「生涯養成コース」ベトナム・カンボジア体験ツアー

2007年7月26日 事前説明会

2007年9月1日～9月11日 参加者11名

行程：ホーチミン→プノンペン→コンポントリアン→シェムリアップ

(3) JLMM タイ・スタディーツアー

2007年12月26日～2008年1月5日 参加者2名

行程：チェンマイ→メーサイ→ポンパー村→チェンマイ→バンコク

(4) 専修大学 SIA カンボジア・スタディーツアー

2008年2月12日～2月22日 参加者12名

行程：プノンペン→コンポントリアン→バタンバン→シェムリアップ

(5) 上智大学サッカー部 カンボジア・スタディーツアー

2008年3月12日～3月19日 参加者6名

行程：プノンペン→タケオ→シェムリアップ

(6) 近畿日本ツーリスト主催 中学生・高校生のための海外研修 カンボジア

2008年3月9日 事前説明会

2008年3月25日～3月31日 参加者6名

行程：プノンペン→タケオ→シェムリアップ

15. 会議

(1) 運営委員会

| 開催回 | 開催日 | 会場 | 議 題 |
|-----|----------------|-----------------------|---|
| 第1回 | 2007年 6月4日 | フランシスコ 会ヨゼフ修道 院 | ・各国・国内活動状況について ・2006年度事業報告(案)及び収支決算(案)について ・レイミッシヨナリー会議について ・その他(CAMBODIA DAY開催についてほか) |
| 第2回 | 2007年 9月25日 | フランシスコ 会ヨゼフ修道 院 | ・各国・国内活動状況について ・レイミッシヨナリー会議について ・2008年度派遣候補者募集について ・その他(チャリティーコンサートについてほか) |
| 第3回 | 2007年 12月4日 | フランシスコ 会ヨゼフ修道 院 | ・各国・国内活動状況について ・2008年度研修について |

| | | | |
|-----|----------------|-----------------------|--|
| | | 院 | <ul style="list-style-type: none"> ・次期運営委員について ・レイミッシヨナリー会議の報告 ・その他（チャリティーコンサートについて） |
| 第4回 | 2008年 2月25日 | フランシスコ 会ヨゼフ修道 院 | <ul style="list-style-type: none"> ・各国・国内活動状況について ・次期運営委員について ・次期顧問司教について ・2008年度事業計画（案）及び収支予算（案）について ・2008年度研修について ・その他 |

(2) CAMBODIA DAY 実行委員会

6月23日開催のCAMBODIA DAYを実行委員会形式で開催した。

委員：町田春海、許斐恵子、小塚めぐみ、對馬徹、吉原マリ子

会議：2007年5月2日（水）

2007年6月14日（木）

(3) グローバル・フェスタ実行委員会

10月6日、7日に日比谷公園にて開催されるグローバル・フェスタ出展にあたり、JLMM支援者を中心に実行委員会を発足。出展に向け企画、準備、実施した。

出展内容は協議の結果、JLMMオリジナルTシャツにイベント参加者が自由にデザインやメッセージを描き込む企画とした。

委員：對馬徹、町田春海、許斐恵子、小塚めぐみ

会議：2007年8月9日（木）

2007年8月27日（月）

(4) チャリティーコンサート実行委員会

1月11日、12日開催のチャリティーコンサート実施にあたり、実行委員会を発足。実行委員会形式によりコンサートを企画・開催した。内容については9. チャリティーコンサート参照。

委員：西垣眞子、對馬徹、町田春海、小塚めぐみ、許斐恵子、有川憲治

会議：2007年10月18日（木）

2007年12月20日（木）

財 産 目 録

日本カトリック信徒宣教者会
2008年3月31日現在

(単位：円)

| 科目 | 金額 | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 預 金 | | | |
| 三菱東京UFJ銀行 | | | |
| 六本木支店 普通 | 3,012,766 | | |
| 六本木支店 普通 | 182,686 | | |
| 六本木支店 定期 | 520,216 | | |
| 郵便振替口座 | 649,661 | | |
| 流動資産合計 | | 4,365,329 | |
| 2 固定資産 | | | |
| 有形固定資産 | | | |
| 什器備品 | | | |
| パソコン1台 | 13,666 | | |
| 無形固定資産 | | | |
| 電話加入権 | | | |
| 03-5414-0991 | 74,984 | | |
| 固定資産合計 | | 88,650 | |
| 資産合計 | | | 4,453,979 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 預り金 | | | |
| 社会保険料 | 74,614 | | |
| 流動負債合計 | | 74,614 | |
| 負債合計 | | | 74,614 |
| 正味財産 | | | 4,379,365 |

貸借対照表

日本カトリック信徒宣教者会

2008年3月31日現在

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|------------|-----------|-----------|
| I 資産の部 | | |
| 1 流動資産 | | |
| 預金 | 4,365,329 | |
| 流動資産合計 | | 4,365,329 |
| 2 固定資産 | | |
| 什器備品 | 13,666 | |
| 電話加入権 | 74,984 | |
| 固定資産合計 | | 88,650 |
| 資産の部合計 | | 4,453,979 |
| II 負債の部 | | |
| 1 流動負債 | | |
| 預り金 | 74,614 | |
| 流動負債合計 | | 74,614 |
| III 正味財産の部 | | |
| 前期繰越正味財産 | 3,864,692 | |
| 当期正味財産増加額 | 514,673 | |
| 正味財産合計 | | 4,379,365 |
| 負債及び正味財産合計 | | 4,453,979 |

収支計算書

日本カトリック信徒宣教師会

自2007年4月1日 至2008年3月31日

NO. 1

(単位:円)

収入の部

| 科 目 名 | | 07年度予算A | 07年度決算B | 増減額B-A | 増減率 B/A | 備 考 |
|------------------|------------|------------|------------|-------------|---------|------------|
| 収入の部 | 会費収入 | 2,500,000 | 1,760,000 | △ 740,000 | 70.4% | |
| | 寄付金収入 | 20,000,000 | 17,408,024 | △ 2,591,976 | 87.0% | |
| | 助成金等収入 | 823,000 | 4,640,000 | 3,817,000 | 563.8% | 今井基金、AFMET |
| | 受取利息 | 1,000 | 2,253 | 1,253 | 225.3% | |
| | 雑収入 | 10,000 | 0 | △ 10,000 | 0.0% | |
| | 当年度収入合計(A) | 23,334,000 | 23,810,277 | 476,277 | 102.0% | |
| | 前年度繰越金(B) | 1,000,000 | 3,763,531 | 2,763,531 | 376.4% | |
| 収入合計 (C)=(A)+(B) | 24,334,000 | 27,573,808 | 3,239,808 | 113.3% | | |

支出の部

| 科 目 名 | | 07年度予算A | 07年度決算B | 増減額B-A | 増減率 B/A | 備 考 | |
|----------------------|---------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 支出の部 | 人件費 | 1. 人件費 (D) | 7,671,000 | 7,663,943 | △ 7,057 | 99.9% | |
| | | 給料手当 | 6,144,000 | 6,144,000 | 0 | 100.0% | 2名分 |
| | | 通勤手当 | 588,000 | 587,760 | △ 240 | 100.0% | |
| | | 退職金 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 法定福利費 | 925,000 | 918,655 | △ 6,345 | 99.3% | |
| | 事務管理費 | 福利厚生費 | 14,000 | 13,528 | △ 472 | 96.6% | 健康診断 |
| | | 2. 事務運営費 (E) | 1,784,000 | 2,012,721 | 228,721 | 112.8% | |
| | | 会議会場費 | 25,000 | 20,000 | △ 5,000 | 80.0% | 運営委員会 |
| | | 会議食事代 | 0 | 4,950 | 4,950 | | 派遣候補者募集面接 |
| | | 会議旅費交通費 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 電話料 | 530,000 | 389,092 | △ 140,908 | 73.4% | |
| | | 郵便切手送料 | 180,000 | 156,110 | △ 23,890 | 86.7% | |
| | | 印刷コピー代 | 60,000 | 171,660 | 111,660 | 286.1% | |
| | | 備品費 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 旅費交通費 | 50,000 | 77,770 | 27,770 | 155.5% | |
| | | 消耗品費 | 100,000 | 155,872 | 55,872 | 155.9% | |
| | | リース料 | 729,000 | 728,520 | △ 480 | 99.9% | |
| | | 支払手数料 | 0 | 199,487 | 199,487 | | 振替手数料等 |
| | | 諸会費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 100.0% | 司教協議会公認団体 |
| | 水道光熱費 | 70,000 | 64,700 | △ 5,300 | 92.4% | | |
| | 維持管理費 | 10,000 | 0 | △ 10,000 | 0.0% | | |
| | 慶弔費 | 20,000 | 34,560 | 14,560 | 172.8% | | |
| | 運営費支出合計 (F)=(D)+(E) | 9,455,000 | 9,676,664 | 221,664 | 102.3% | | |
| | 活動費 | 研修費 | 611,000 | 676,057 | 65,057 | 110.6% | |
| | | 派遣活動費 | 6,210,000 | 5,491,850 | △ 718,150 | 88.4% | |
| | | 調査研究費 | 3,413,000 | 3,161,093 | △ 251,907 | 92.6% | 職員1名分含む |
| | | 広報活動費 | 1,870,000 | 3,824,932 | 1,954,932 | 204.5% | |
| 行事費 | | 475,000 | 452,497 | △ 22,503 | 95.3% | レイミッシヨナリー会議 | |
| 活動費支出合計 (G) | 12,579,000 | 13,606,429 | 1,027,429 | 108.2% | | | |
| 運営費活動費計 (H)=(F)+(G) | 22,034,000 | 23,283,093 | 1,249,093 | 105.7% | | | |
| 財務支出合計 (I) | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 当年度支出合計 (J)=(H)+(I) | 22,034,000 | 23,283,093 | 1,249,093 | 105.7% | | | |
| 当期収支差額 (K)=(A)-(J) | 1,300,000 | 527,184 | △ 772,816 | 40.6% | | | |
| 次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J) | 2,300,000 | 4,290,715 | 1,990,715 | 186.6% | | | |

正味財産増減計算書

日本カトリック信徒宣教者会

2007年4月1日から2008年3月31日まで

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|---------------------------------------|---------|---------|-----------------------------------|
| I 増加の部 当期収支差額 増加額合計 | 527,184 | 527,184 | 527,184 |
| II 減少の部 1 資産増加額 固定資産除却 減少額合計 | 12,511 | 12,511 | 12,511 |
| 当期正味財産増加額 当初正味財産額 期末正味財産合計額 | | | 514,673 3,864,692 4,379,365 |
| | | | |

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

| 科目 | 前期末残高 | 当期末残高 |
|----------|-----------|-----------|
| 預金 | 3,977,675 | 4,365,329 |
| 前払費用 | 553 | 0 |
| 合計 | 3,978,228 | 4,365,329 |
| 未払金 | 72,293 | 0 |
| 預り金 | 142,404 | 74,614 |
| 合計 | 214,697 | 74,614 |
| 次期繰越収支差額 | 3,763,531 | 4,290,715 |

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

| 科目 | 取得価格 | 前期末残高 | 当期償却額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|------|---------|--------|-------|-----------|--------|
| 什器備品 | 273,315 | 13,666 | 0 | △ 259,649 | 13,666 |
| 合計 | 273,315 | 13,666 | 0 | △ 259,649 | 13,666 |

1999年取得パソコン1台（取得価格 250,215円、前期末帳簿価格 12,511円）を除却した。

監査意見書

日本カトリック信徒宣教者会会則第13条第4項の規定に基づき、2007年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2008年 5月 16日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (財務)



2008年 5月 26日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (事業)

